

奉耕記念碑

明治天皇は1912（明治45）年7月30日に崩御なされた。明治天皇は61歳で崩御され、皇太子嘉仁（よしひと）親王が天皇の位を受け継がれた。新しい元号は「大正」、「天興」、「興化」の中から「大正」が選ばれ、1912（明治45）年7月30日を「大正元年」となった。

1915（大正4）年、大正天皇即位の大嘗祭を行うにあたり、儀式に用いる新米を収穫するために京都より東日本を悠紀（ゆき）、西日本を主基（すき）として二つの斎田を選定した。これは1914（大正3）年2月5日、悠紀・主基の神殿で行われた。火炎の上に悠紀・主基の亀甲板2枚をかざし、甲面に生じた亀裂が悠紀は愛知県、主基は香川県を指したことから決定されたという伝説的な記述が残っている。

愛知県は悠紀斎田に岡崎市中島町（旧碧海郡六ツ美村大字中島字丸の内）で早川定之助が所有する田を勅定した。天皇一代に1度限りの大祭である大嘗祭の斎田に選ばれたことはとても名誉なことであり、六ツ美村民はもとより、愛知県民挙げての協賛儀式が進められた。斎田地には早速、周囲に斎竹（忌竹（いみだけ）：不浄災難除けの葉付きの青竹）を立て、しめ縄が張られ標柱も建てられた。また、斎田事務所も建てられ、高橋用水も整備された。

本来は1914（大正3）年に大正天皇即位の大嘗祭を行う予定であったが、1914（大正3）年4月11日に昭憲皇太后（明治天皇の皇后）が崩御されたことから、大嘗祭は諒闇（りょうあん：天使が父母の死で喪に服する期間）中は行わないことになった。翌、1915（大正4）4月19日に、即位の礼は11月10日に、大嘗祭は11月14日に行われた。

1924（大正13）年に悠紀斎田奉耕10周年記念として記念碑が建立された。これは早川龍介の撰文で悠紀斎田の選定から供納までが刻まれている。現在は「悠紀の里」にある。

碑文の表はくずし字のため筆者では判読できない。裏面は建設者の名簿が刻まれている。



悠紀の里記念碑群 20150731

奉耕記念碑
10周年記念
1916(大正5)年
20150731



・奉耕紀念碑碑文（表上段）



・奉耕紀念碑碑文（表下段）



・奉耕記念碑碑文（裏）

建設者姓名イロハ順

・知立町	・高岡村	・旭村	杉浦 小市	細井 さわ
石川 慶造	石川 善助	高松惣一郎	杉浦 幸一	星野 レイ
加藤儀兵衛	太田 米松	長坂 宇平	・新川町	本田 かと
杉浦 鎌次	都築 種一	金原 末吉	奥谷惣次郎	本田 静
・刈谷町	小山文太郎	・安城町	山田 甚蔵	本多ヒサエ
尾島 林平	水野惣次郎	岩井 太郎	・六ッ美村	渡邊 ゆき
加藤 半吾	・棚尾村	新家勝三郎	磯谷斧三郎	川口 チエ
深谷 甫逸	名倉 諭	鶴田 傳平	磯村仁太郎	加藤 スミ
鈴木紀太郎	・矢作町	大見 為次	石川 留吉	竹本 キン
・上郷村	伊豫田専吉	大參 周平	早川 柳治	土屋 ヨネ
成田 清	稲垣初三郎	野村 國市	早川文左衛門	村上しゆう
近藤 得治	細井 儀作	野村 壽一	早川幸之助	野々山けん
三浦はぎの	太田唯一郎	柴田 幸市	早川 資郎	野々山志げ
・依佐美村	梅本 信治	杉浦 彦次	萩原七五三太郎	大久保よしゑ
石川 益次	野村 正巳	・櫻井村	新實 淳二	山崎 つう
長谷川清吉	矢田 金治	岩月 初市	新實彦次郎	近藤 ちよ
小笠原 平	山田兼太郎	岩瀬 義重	本田 九平	志賀 ゑい
長澤 小一	杉山善次郎	戸田 坂市	太田伊太郎	平井 カズ
山田 宗次	・富士松村	加藤文次郎	太田登喜次	杉田 トウ
山城才次郎	野々山教太郎	熊谷辰次郎	太田 要一	杉浦 カズ
・高濱町	酒井彌四郎	・明治村	太田恒太郎	杉浦 こよ
杉浦 晁	酒井権兵衛	杓名 米作	太田 佐市	
杉浦 榮一	鈴木鹿次郎	二村 春吉	高木政治郎	



本項は以下の資料を引用している。

[大嘗祭 悠紀齋田]

筆者： 野々山 克彦

監修： 野村 弘、都築 末二、山崎 鉦司、越山 義之

発行日：2014（平成 26）年 4 月 1 日

印刷所：永田印刷所

[大嘗祭 六ッ美悠紀齋田 100 周年記念事業記念誌]

編集・発行：六ッ美悠紀齋田 100 周年記念事業実行委員会記念誌編集委員

発行日： 2016（平成 28）年 2 月 25 日

印刷所： 大日印刷株式会社

[六ッ美村誌]

編者 六ッ美村是調査会

発行 六ッ美村是調査会

発行日 1926（大正 15）年 12 月 1 日

発行所 日新堂書店

印刷所 活版印刷所